

# 1 学年算数科学習指導案

児童 札幌市立山の手小学校 1年1組 男子17名 女子16名 計33名  
指導者 札幌市立山の手小学校 教諭 末原 久史

## 1. 単元名「たしざん……②」

## 2. 単元について

本単元にかかわる既習事項

1年生では、加法に関して次のことを学習した。『いくつといくつ』では、10までの数の合成と分解の活動を通して、加法と減法の基礎としての位置づけと数を多様にとらえることができるような学習をした。

『たしざん…①』では、加法の意味や問題場面を知り、記号や式を用いて表せることを学習した。また、式をよむ活動を通して、加法が使われる場面理解の学習もしている。

『10よりおおきいかず』では、40くらいまでの数を「十といくつで十何」「何十と何で何十何」と表すことが分かり、10のまとまりを意識する学習をしている。

『たしざんとひきざん』では、数のすべてを見なくても、一位数だけに着目して計算できる工夫を見つけている。また、3口の計算であっても、10といくつと考えると既習の加法が適応できることを学習している。

自分の考えにこだわりながらも、自分なりの解決方法をいろいろな表現方法で説明できる子どもに育てることが大切である。

そのためには、新たな見方・考え方を1年生なりの表現活動の中で十分に引き出していくような関わりをしていくことである。

1年生は特に、友達の考えと自分の考えが同じかどうか、話を聞いただけでは理解しにくい。具体的レベル(おはじきや連結積み木)・映像的レベル(絵や図)・抽象的レベル(言葉や式)と多様な活動をし、表現している子どもたちの考え方を共通の解決方法に着目しながら『～作戦』とネーミングすることにした。

また、友達の考えを確認するための活動として「他の式でもやってみる」「他の考え方もやってみる」体験を大切にしたい。更に、自分がやっ

てみた時に「この場合は～作戦で」というように考え方のよさを納得し、新たな気づきを生み出すことも可能になり、自分ごととしてとらえることができる考える。

このことから、一人一人の表現力を土台としてお互いの考えが理解できる子、理解しようとする子に育てていくことが大切である。

更に、「同じ考えの人がいる」「他の人の話が聞きたくなる子」「今度はこちらでやってみよう」「たくさんあるんだな」→「こうだからこれがいい」と考えられる子に育てることを重視した。

なお、本単元のおわりまでには、それぞれの作戦を理解し、それぞれのよさに気づきながら、和が11以上になる加法の計算ができるようになり、更に10のまとまりを作る数理的な処理のよさを実感させることとした。

「自分なりの表現」は、お互いのよさを認めあったり、見方・考え方を高め合う前提にもなるものである。本単元でも、「表現ができる」「表現したくなる」ような場を大切にしながら学習を進めたい。

## 3. 単元の目標

### 【算数への関心・意欲・態度】

- ・数の構成や加法の性質に着目しながら答えを求めるよさに気づき、進んで計算の仕方を考えようとする。

### 【数学的な考え方】

- ・(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算を問題場面に結びつけて考えることができる。
- ・(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算を10のまとまりに着目して考えることができる。

### 【数量や図形についての表現・処理】

- ・(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算式にあう問題を作ることができる。
- ・繰り上がりのある計算ができる。

### 【数量や図形についての知識・理解】

- ・1位数どうしの繰り上がりのある計算が分かる。
- ・問題に応じて加数分解や被加数分解などを使い分け、10の補数を考えることができる。

#### 4. 根拠を明確にした単元構成

既習と未習を意識する単元構成

たし算は、数えたしで答えを求められる。既習・未習の式を意識する活動を通して、和が10より小さい式と10より大きい式があることに気づかせたい。既習の式との違いを意識しながら、学習を進めていく単元構成である。

「こうすればできるはず」「新しい作戦を考えた」「あの作戦は、これでも使えそうだ」「次はこの作戦でやってみよう」という、解決の見通しや期待をもてる単元構成である。子どもの挑戦意欲を大切に、追体験を通して「前はうまくいったのに、おかしいぞ。どうしてだろう。」等の心が揺れるような場を設定していく。前時の見方・考え方とのズレから、『問い』が生まれ、追求の必要性が出てくると考える。

この追求を通して、既習を生かしたり、新しい作戦を生み出そうとする姿が期待される。また、新しい作戦を生かそうとする意欲にもつながると考える。このような子どもの思いを大切にするための小集団での交流、全体での交流を考えたい。

- 友達の考えのよさは、どんなよさなのか自分とはどう違うのかを明らかにして話し合う場
- 自分自身の表現・考えが変容したり、高まりをどの子も実感できる場

数に対する柔軟性を育てる構成

本単元では、単元のはじめに既習と未習の区別を子どもと共に考えることから単元が始まる。やがて子どもたち自身が単元構成に参画すべき姿を目指した上で、1年生の9月段階なりに意識させたいためである。

また、単元で目指す子どもの姿を「数を柔軟に見ることのできる子ども」と押さえた。これは、たし算をするための数の見方である数の合成・分解が目的に応じてできる力を育てることである。数を自在に分解・合成することができれば、一つの集合数について柔軟な見方ができていると言えよう。常に既習との違いを考え、扱う数字や作戦に着目させることで身につくと考える。

そのために、単元の後半においては自ら解決の

作戦を選択し、自分の考えに自信をもって解決過程を明らかにできるようにしたいと考えた。そこで前半では、後半で自らが学習を進める力を育てるために、一つ一つの学習時間のねらいをはっきりさせて学習を進めることとした。

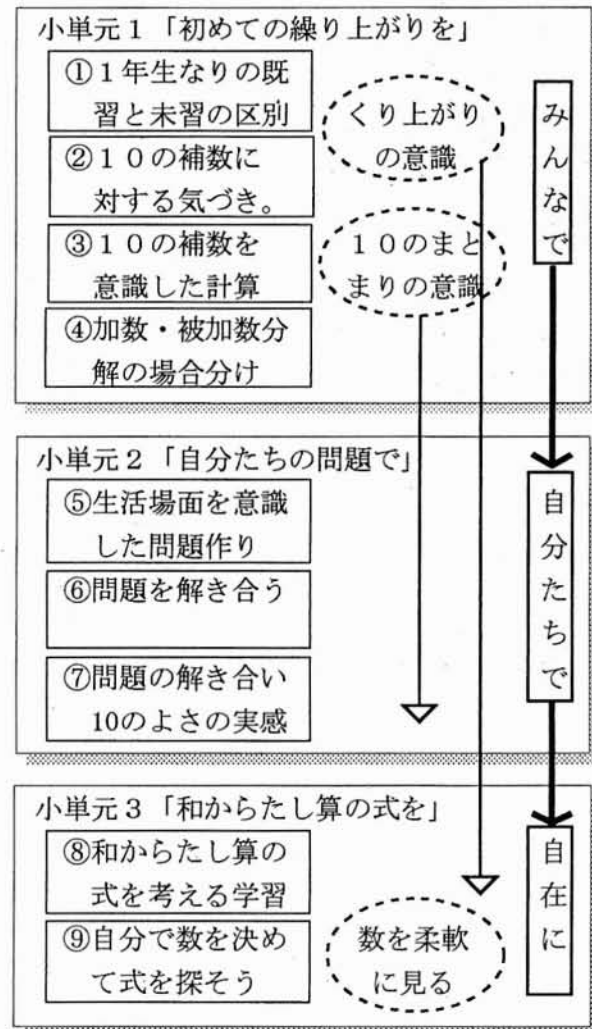
1時間目では、先に記したように既習と未習を子どもたちと弁別することをねらいに据えた。

2時間目では、早く分かりやすくを目標に10のよさに気づき、10の補数について考えること。

3時間目では、10の補数を念頭におきながら被加数が5以下のたし算の分解。

4時間目では、2問を照らし合わせながら、加数・被加数が共に5以上の場合でも10の補数を考えられること。

そして、1～4時間でたっぷり財産を獲得した子どもたちは、5時間目以降を自らの力で解決に取り組んでいくであろう。そこで新たに、数を展開し解決できることの楽しさや、10の補数を考えることで計算できることの簡便性に気づいていくであろう。そのことが子どもたちにとっての算数のおもしろさへと結びついていくと考える。



5. 単元の構成 (9時間扱い 本時3/9)

時	題	子どもの意識の流れと学習活動																																																									
1		加法の学習は、既に(1位数)+(1位数)、(何十)+(何)で繰り返り上がりのない場合を経験している。また、3つの数の加法についても学習してきている。 既習としての経験は「いくつといくつ」「たしざん…①」「たしざんとひきざん…①」																																																									
		あさがお調べの結果から・・・みんなのあさがおいっぱい咲いたね。																																																									
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>赤色</th> <th>青色</th> <th>式</th> <th></th> <th>赤色</th> <th>青色</th> <th>式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 7月20日</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>2+5</td> <td>E 9月3日</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>9+3</td> </tr> <tr> <td>B 8月4日</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4+4</td> <td>F 9月8日</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>4+9</td> </tr> <tr> <td>C 8月14日</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>3+6</td> <td>G 9月11日</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>8+6</td> </tr> <tr> <td>D 8月24日</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>7+3</td> <td>H 9月18日</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>6+7</td> </tr> </tbody> </table>							赤色	青色	式		赤色	青色	式	A 7月20日	2	5	2+5	E 9月3日	9	3	9+3	B 8月4日	4	4	4+4	F 9月8日	4	9	4+9	C 8月14日	3	6	3+6	G 9月11日	8	6	8+6	D 8月24日	7	3	7+3	H 9月18日	6	7	6+7												
	赤色	青色	式		赤色	青色	式																																																				
A 7月20日	2	5	2+5	E 9月3日	9	3	9+3																																																				
B 8月4日	4	4	4+4	F 9月8日	4	9	4+9																																																				
C 8月14日	3	6	3+6	G 9月11日	8	6	8+6																																																				
D 8月24日	7	3	7+3	H 9月18日	6	7	6+7																																																				
		答がすぐに分かるたし算と 答がすぐに分からないたし算 にわけてみよう		どうすれば花の数が分かるかな ・たせばいいんじゃない ・たし算を使えばいいよ 式を作ってみよう いっぱいたし算があるよ (繰り返り上がりの意識←問いの醸成)																																																							
		すぐに分かるたし算 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>1+1</td> <td>~</td> <td>1+9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2+1</td> <td>~</td> <td>2+8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3+1</td> <td>~</td> <td>3+7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8+1</td> <td>~</td> <td>8+2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9+1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		A	B	C	D	1+1	~	1+9		2+1	~	2+8		3+1	~	3+7		...				8+1	~	8+2		9+1				すぐに分らない <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>E</td> <td>F</td> <td>G</td> <td>H</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2+9</td> </tr> <tr> <td>3+8</td> <td>~</td> <td>3+9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8+3</td> <td>~</td> <td>8+9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9+2</td> <td>~</td> <td>9+9</td> <td></td> </tr> </table>				E	F	G	H				2+9	3+8	~	3+9		...				8+3	~	8+9		9+2	~	9+9	
A	B	C	D																																																								
1+1	~	1+9																																																									
2+1	~	2+8																																																									
3+1	~	3+7																																																									
...																																																											
8+1	~	8+2																																																									
9+1																																																											
E	F	G	H																																																								
			2+9																																																								
3+8	~	3+9																																																									
...																																																											
8+3	~	8+9																																																									
9+2	~	9+9																																																									
		分けた秘密はなんだろう ・10より大きいから。 ・両手では足りないよ。 見た目では分かりずらいたし算を これから勉強するよ。		答が10より大きくなるたし算 は、どんな工夫をすれば計算で きるのかな																																																							
		○Aの9+3から考えよう。		← どれからやればいいのか																																																							
2	問題の理解	赤いあさがおのはなが9つさいっていました。 青いあさがおのはなが3つさいっていました。 あさがおはぜんぶでいくつさいていたでしょう。																																																									
		[表現・処理] 繰り返り上がりのある足し算を自分 なりの作戦・方法を用いて表すこ とができる。																																																									
		9+3を考えよう。																																																									
		素早くできる作戦がいいよ。		簡単にできる作戦がいいよ。																																																							
		前のたし算ではいろんな作戦があったよ。																																																									
		作戦を決めてやってみよう		新しく作った作戦でもいいよ																																																							
		具体物 おはじき つみき		半具体物 絵や○など		抽象物 ことば 数式																																																					
		解決に使用するもの																																																									
		はじめから数えるタイプ・あ																																																									
		①はじめから数える作戦・・・1, 2, 3, ……12 (数え作戦)																																																									

どんな作戦でやろうかな。  
 どんな作戦がいいのかな。

の  
実  
行

- ② 2つずつ数える作戦・・・2, 4, 6, ……12 (2数え作戦)
- 9を念頭において考えたタイプ・い
- ③ 9の次から考える作戦・・・10, 11, 12 (数えだし作戦)
- ④ 9に3を移していく作戦・・・10, 11, 12 (移し作戦)
- 分解を用いたタイプ・う
- ⑤ 3を分解してたす作戦・・・9+1と2 (加数分解) 10を意識
- ⑥ 9を分解してたす作戦・・・7と2+3 (被加数分解) 5を意識

解  
決  
の  
検  
討

まずは

自分でやってみよう

- 自分で解決。1つの方法でチャレンジ  
絵・数字・言葉はかいて表現する。  
おはじき・積み木についても解決の後を  
残せるようにする。
- できた子は他の方法に取り組むかほかの  
方法でやった子を意識して交流を促した  
り自らかかわろうとする

つぎに

友達から聞いてみよう

- 小交流で聞く場合  
似ている作戦はないかな  
同じものを使った作戦はないかな
- 集団での交流・検討活動を生む良質な問い —  
○全体での交流で聞く場合  
大きく分けるとあ・い・うの3つのタイプ  
があるよ。  
答えの出し方で似ているところはないかな

いろんな作戦ができたよ。でも... ぱっと見て分かりやすいのは...  
どのやりかたも間違えないでできるのかな

あのやり方は間違えなくできるよ。でも時間がかかるよ。たいへんだよ。  
いのやり方はあよりよさそう。  
うのやり方は簡単そうだし、見ただけでも分かりやすいよ。すぐ分かるよ。  
でも、どれもみんな10を使って答えを出しているよ。  
10と、あと2こでみんな答えが出ているよ。

これで10を越えるたし算もできそうだよ。10の作り方に秘密がありそうだ

3  
(  
本  
時  
)

問  
題  
の  
理  
解  
  
解  
決  
の  
計  
画  
・  
実  
行

赤いあさがおのはなが4つさいっていました。昨日の勉強とにているよ  
青いあさがおのはなが9つさいっていました。同じ9があるよ  
あさがおはあわせていくつのはながあるでしょう。どのやり方がやりやすいのだろう

4+9を考えよう。

ほんとに10を作ったら簡単になるのかな  
何かをつかって10を作ろう

積み木や  
おはじきで ← 卵パック  
を使って → 絵で  
かいて ← 数字で  
表して → 言葉で  
書いて ← 抽象物

10が作れたよ

10を簡単に  
作れないかな

まずは  
自分でやってみよう  
つぎに  
友達から聞いてみよう

○小交流で聞く場合  
自分のと似ている  
ものはないかな  
似たものを使った  
作戦はないかな

解決の検討

○全体での交流で

聞く場合

似たやりかたや似たものを使っているけど  
10の作り方が少し違ってるよ。

○前時の追体験的な時間から、  
分解方法の価値追求的な交流へ  
10を作ることのよさを全員に  
実感させながら  
10の補数に  
気づかせる

4にたすより9にたした方が  
早く10を作れるよ

9を分解するより4を分解した  
方が簡単に10を作れたよ

・簡単に10を作る秘密は  
少ない数で10を作ればいいんだよ。  
・本当に10を作ったら簡単だったよ。

【**数学的な考え方**】自分や友だちの考  
えをもとに、10のまとまりに着目  
して考えることができる。

4

もうC「 $8+6$ 」もD「 $6+7$ 」も分かるよ

①  $8+6$  ②  $6+7$  を考えよう

数がにているよ どっちからやろうかな  
作戦は何にしよう 何を使ってやろう

どの作戦で考えようかな

少ない数の方を分解した方が素早く10が作れるよ

【**知識・理解**】10の補数を  
意識して、問題に応じて分解方  
法を使い分けることができる。

①は後分解作戦

②は前分解作戦

がよさそうだよ

もう数字だけでできるよ、積み木やおはじきで確認するよ  
早く簡単にできたよ

もうこれで $\square+\square$ はぜんぶ分かるよ

自分でも問題を作ってみたいな。

5

10を超える問題を作ってみよう。  
問題をつくったらみんなで解こう。

【**数学的な考え方**】1位数の繰り上が  
りのある計算を、問題場面に結びつ  
けて考えることができる。

生活の中から  
考えよう。

10のつくり方  
も考えて

1時間目の問題  
式を見て考えて

...

6

いろんな問題ができたよ。

僕は誰々の問題からやるよ。

私は〇〇ちゃんの問題から。

7

いろいろな問題でも10を作れば簡単だよ。 $\square+\square$ の問題は全部できるよ。

8

問題の構成

答えが13になる問題はいくつあったかな。  
みんなの作ったたし算からかんがえよう。

13になる式を探せばいいんだね。

【**関心・意欲・態度**】  
数の構成や加法の性質に着目し  
ながら、進んで考えようとする。

理解  
解決の計画  
実行

9 + 4   5 + 8   6 + 7   ..

前の数(被加数)の順番に並べてみると...

9 + 4	5 + 8
8 + 5	4 + 9
7 + 6	
6 + 7	

不足数が一つずつ減ってるよ

全部で6枚だけだよ。

他には10 + 3も11 + 2もできるよ

13 + 0ならいいんじゃない  
→それなら12 + 1も...

13の分解だね  
10 + 3でもできそうだよ

順番にきれいにならべると

13 + 0	9 + 4	5 + 8	1 + 12
12 + 1	8 + 5	4 + 9	0 + 13
11 + 2	7 + 6	3 + 10	
10 + 3	6 + 7	2 + 11	

全部で14こあったよ

9 + 4と4 + 9のような  
仲間もいたよ

たされる方は一つずつ減っているよ   たす方は一つずつ増えているよ

ひき算だってできるよ

ひき算だって14から1を引けば  
13になりそうだよ

10を越えていてもできるよ。

9 + 4が13なら19 + 4は23だよ  
9が19になって10増えただけだもの。

解決の検討

9

他の数はどうだろう

[表現・処理] 既習の数の合成・  
分解や加法の性質を利用して、計算  
カードをつくることができる。

わたしは15を調べるわ  
15のときは4枚

僕は12で調べるよ  
12の時は7枚

みんなの調べたのを集めてみよう

○カード1枚に式を1つ記入し

自分たちで自分の計算カードを作る

みんなのをきれいに(99表の様に)全部並べてみると...

斜めに同じ答えがそろっているよ。  
たす数が同じでもたされる数で答えが違っているよ。  
たされる数が同じでも不足数が1増えれば答えも1増えているよ。  
真ん中は近い数が集まっているよ。(差に目を向けて)  
10でも作れそうだよ(10以上のたし算に目を向けて)

## 6. 本時の学習 (3/9)

### (1) 本時の主張

前時の10を意識した解決活動

「本当に10を作れば簡単なの？」

前時では、繰り上がりのあるたし算に初めて取り組んだ。

ぱっと見ても分からないたし算も今までの作戦や方法で解決する事ができた。作戦別に大きく分けるとはじめてから数える考え方、数え足していく考え方、それと数を分解する考え方の3タイプに分けることができる。その3タイプの中で「はじめてから数えると大変だ。」とか「途中から数えた方が素早いよ。」など、それぞれの特徴を1年生なりに違いを表現しようとする。それぞれ分け方に違いはあるのだが、また共通点もある。子どもたちと話し合う中で前時までにとどりついた共通点は、最終的には答えを表現する段階で10というものを乗り越さなければならないことである。つまり、繰り上がりのあるたし算を解決するためには、前時で確認したどの方法でも10を通過しなければ答えにとどり着くことができないということである。このことが本単元における10のまとまりの考え方についての出発点である。その10のまとまりに対する考え方をより確かなものにするために、本時では10を意識した解決がはじまる。

似た作戦や似たものを探す交流

「できたよ、同じ人探しの旅へ行こう？」

ある程度自分の解決に自信がもて、更に1つの方法で解決

できた子は、同じ作戦や同じ手段を使っている友達を探し始める。自分の解決に対する自信をもつために、友だちの解決がどのようなものなのか情報を探す。また、同様の解決をした友だちを探していく。自分とは全く同じではないのだが、同じ作戦を使っていたり、同じ物を使っている友達が必ずいるはずである。しかし、自分と同じだけでもまったく同じではなく、どこか自分の方がよかったり友だちの方が見やすかったりする。

「僕と同じだ。」「この部分は違うな。」といった友だちの考えに対する見方・聞き方を育てていき、自分の考えの位置づけを子ども自身ができることを目標とした。本時では、それを自分の中に生かそうとすることで子どもたち同士のかかわり

合いによる高まりを小集団の中でねらうものである。その交流の観点を、同じ人探しとすることで1年生なりの小集団での交流を組織することができる考えた。

小交流で生じた違いから全体交流へ

「僕と同じものを使って

いるけど分け作戦が違う。」自分と同じものを使って表現している友達。同じ○や□などの半具体物で問題を表現し

解決の過程を書き記している。だけど違う。また、同じ分解作戦を用いて同じ数字を使って解決の跡を残している。だけど、少しどこか違う。その違いが数の分解方法の違いである。加数を分解している子と、被加数を分解している子で違いが生じる。前時で学習したはじめての繰り上がりのあるたし算は、後ろを分解する方法であった。つまり加数分解である。そのため、既習を生かし後ろを分解した子どもたち。それに対し、前時の取り組みを9にあと1つをたしただけであると考え前を分解した子どもたち。つまり被加数分解を使っている。同じ10を作るのに双方違う取り方をしている。「同じだね、だけど僕は4を分解したよ。」「僕は9を分解したよ。」「どっちでもできたみたいだけど……。」その観点を全体で話し合うことで、自分はどちらの方法でやってみたのか1年生なりに表現し、どちらがいいのか、両方がいいのか、更にはどんな時にどっちがいいのか、前時ではどちらだったのかなどを集約していく交流をねらう。最終的には10の補数に目が向いていけるように、そして10のよさ、解決の早さを実感してほしい。

### (2) 本時の目標

#### [算数への関心・意欲・態度]

・意欲的に既習を生かし、進んで自分の解決方法を表現しようとする。

#### [数学的な考え方]

・自分や友達の考えをもとに、10のまとまりに着目して考えることができる。

7. 本時の展開

選	子どもの意識の流れと学習活動	教師のかかわり
	<p>(前時までの活動) 「見てすぐに分かるたし算」と「見てすぐに分からないたし算」を弁別し、その違いを探りながら、前時には繰り上がりのあるたし算を分かりやすくする秘密が10のまとまりを早く作ることに気がつきつつある。</p>	
問題の理解	<p>赤いあさがおのはなが4つさいていました。 青いあさがおのはなが9つさいていました。 あさがおのはなはあわせていくつでしょう。</p>	<p>《問いを引き出す》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習「9+3」を思い起こさせることにより、10の補数を見つけるには加数、被加数分解のどちらをするとよいのかという問いを生ませる。</li> </ul>
解決の計画・実行	<p>昨日の勉強とにているよ 同じ9があるよ 昨日は10を作ればはやかったよ 本当かな みんなで確かめてみよう</p> <p>4+9を考えよう。</p> <p>何をつかって10をつくらう</p> <p>積み木や おはじきで      卵パックを使って      絵で かいて      数字で 表して      言葉で 書いて</p> <p>具体物 &lt;-----&gt; 半具体物 &lt;-----&gt; 抽象物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な解決方法を期待すべく、10というものが日常的にどこに存在するのか、問題場面と共に生活場面での10を想起させる。</li> </ul>
解決の検討	<p>10が作れたよ</p> <p>自分で やって みよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で解決。まずは1つの方法でチャレンジ 絵・数字・言葉はかいて表現する おはじき・積み木についても解決のあとを残す</li> <li>他の方法へ取り組んだり友達とかかわる</li> </ul> <p>友達から 聞いて みよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小交流             <ul style="list-style-type: none"> <li>似ているものはないかな</li> <li>同じものを使った作戦はないかな</li> </ul> </li> </ul> <p>似ているやりかたや同じものを使ってのけど ちょっと10のつくりかたで違うところがあるよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決の中で他の方法に挑戦したりすることで、具体物→半具体物→抽象物と変遷させる。</li> </ul> <p>《問いの醸成》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小交流では、自分の考えと比較させながら、10の作り方が一つではないことに気づかせたい。「簡単な方法はどれだろう」「早く解決できるのは」という問いを持たせていきたい。</li> </ul>
	<p>○全体での交流</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>4を分けて10をつくっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前の数(4)を分けた方が1だけあげれば10になるよ</li> </ul> <p>前を分ける作戦</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>9を分けて10をつくっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前の勉強では後ろを動かして10をつくったよ。</li> </ul> <p>後ろを分ける作戦</p> </div> </div> <p>ぱっと見て分かる、早く10を作るには・・・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単に10を作る秘密は 少ない数で10を作ればいいんだよ。 あといくつで10になるかを考えると早くできるよ。</li> <li>本当に10を作ったら簡単だったよ。</li> </ul> </div> <p>ぱっと見て分かるひみつが分かってきたよ。 十を越えてもぱっと分かるようになってきたよ。</p>	<p>《集団での交流・検討活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習「9+3」とあわせて10を作るよさ、大きい方の数を10にすると早いということに気づかせていきたい。</li> <li>何のために10を作るのかという原点に立ち返り、早く見てすぐ分かるという観点に着目させる。</li> <li>その上で簡単に10を作る秘密が10の補数を考えることであることに、子どもの声を中心にして収束させる。</li> </ul>